味・美・楽Shop

ELLY'S DINING（エリーズダイニング）

三世代が笑顔で受け継ぐ「母の味」優しい味とおもてなしに心ポカポカ

ヘルシーでボリュームも満点。ワンプレートランチ（1000円、内容は日替わり）。写真は上から時計周りに鶏肉の唐揚げ甘辛だれ、手作り豆腐、ピリピリ肉炒め、お酢のサッパリ春雨、切り干しの炒め煮、ポテカボグラタン、もち麦ご飯。別皿の手作り玉ねぎドレッシングサラダ、無料でサービスされるマテ茶もおいしい。

「いらっしゃいませ。お寒い中、本当にようこそ…!」お店を入ると同時に、花が咲いたような笑顔で、オール女性のスタッフがお出迎え。お揃いの赤いTシャツがさらに華やかさを増し、来ただけで嫌な事が吹き飛びそうな明るさです。

看板はアメリカンですが、扉を開けると一転、昭和モダン風。和と洋が絶妙のバランスで配置された店内は、思わず「素敵!」と取材陣からも声が上がります。

しかし、なんといってもエリーズダイニングの魅力は、親子三代の連係プレーによる、温かい味とおもてなしでしょう。「お店の名前は私のアメリカ在住時代のニックネームなんです!」と、愛嬌たっぷりにお話をしてくれたのは、長女で店長の惠里子さん。

「昔からいつもわが家は友達の集合場所だったんです。お目当ては母の料理。同窓会をしても『お母さんのあの料理がまた食べたい』と真っ先に話が出るくらい（笑）。食事は人を幸せにする、いい思い出を作るという事を常に祖母や母の背中を見て教えられてきました。このお店でも、より多くの人におもてなしできれば嬉しいです」

三世代全員が「現役」としてキッチンに立ち、パティシエの妹さんがスウィーツを担当。どのお料理も、じんわり、しっかりとおいしさが沁みこみ、口に入れた途端「んー!」と目をつぶってしまうほど。特にふわっふわのお出汁をアツアツの豆腐に乗せていただく自家製豆腐はスプーンが止まらなくなること請け合い。

プラス300円でコーヒーとスウィーツ付に。スウィーツが2種類から選べるのも嬉しい!　左がベイクドチーズケーキ、右がバレンタインチョコケーキ。ケーキは週替わり

女性ならではの気配りと包容力、そして、オシャレ感がいっぱい。仲良しでありながらお互い独立した役割と責任感をもちプロとしてふるまう…。そんなエリーズダイニングには、友達が友達を連れ、またその友達が来る、という理想的なサイクルを経て、リピーター続出中です。

どっしりとした木造の内装に、センスの良い小物とポイントの赤色がとってもモダン。テーブルも広々と使え、とても落ち着く雰囲気。宴会やお誕生日会などにも。

エリーズファミリーの飛び切りの「三世代笑顔」が何よりも魅力!

目印は黄色い看板とモダン風玄関。看板に描かれたニコニコマークはご家族のトレードマーク!

お店データ
- 住所：大阪府河内長野市寿町5-60
- Tel：0721-52-2556
- 営業時間：昼11:30～14:00 夜18:00～22:00
- 定休日：日・祝日
- 駐車場：5台

http://www.facebook.com/EllysDining0908

1/2 Day Trip　河内長野発

まるで防災のテーマパーク

災害時の適切な行動が学べる 大阪市立阿倍野防災センター

「3.11」から丸3年。防災への関心が高まる中、耐震対策や備蓄はできていても、いざという時に適切な行動が取れるでしょうか?　そこで訪れてみたい大阪市立阿倍野防災センター。楽しく防災が学べる体験館として全国から大勢の老若男女が訪れています。

崩れ落ちた街並みを歩く（地震災害体験ゾーン）

アテンダントから危機箇所を学ぶ

館内は「防災学習ゾーン」と「地震災害体験ゾーン」があり、体験ゾーンでは災害現場をアテンダントと一緒に回りながら実習します。なかでも本物の建材で再現された震災後の街並は真に迫る迫力。ここで119番に電話をかけたり、ジャッキを使って人を救助したり。地震体験コーナーでは、東日本大震災や阪神・淡路大震災級の地震波が起震装置で再現され、揺れがリアルに体感できます。このほか煙の中を避難する、燃えている天ぷら鍋を消火器で消す、ケガの応急処置を学ぶなどのコーナーも。来館者は年々増えており1日平均200人。

企画広報係長の岡本芳治さん

体験したい内容に合わせて4コースあり所要時間は30分～100分。春休みや土日祝日は事前予約が必要です。入館無料。

「あべのフォルサ」の3階

地震体験コーナー

●大阪市阿倍野区阿倍野筋3-13-23　あべのフォルサ3階　TEL: 06-6643-1031
開館時間：10:00-18:00　休館日：水曜・毎月最終木曜
交通アクセス：地下鉄谷町線・阪堺線「阿倍野」駅より徒歩4分、JR・地下鉄御堂筋線「天王寺」駅、近鉄線「あべの橋」駅より徒歩8分。（P24台）

美加の台のMさん

Q「神ガ丘」は昔「鬼住（おにずみ）」といったとか。鬼がいたのでしょうか?

みなみかわち・なんでも調査隊 ～あなたのナゾにお答えします!～

語り継がれる鬼退治伝説

神ガ丘の住民で、地域の歴史に詳しい堂浦武久さんに話を伺いました。

「神ガ丘は、昭和29年までは川上村鬼住と呼ばれていました。町村合併で河内長野市に統合される際、住民投票によりこの名に変更されたのです。観心寺に残る古文書によれば、鎌倉時代に『小西見郷（すにしみ）』との記録もあり、これが鬼住に転じたとの説もありますが、いつの時代からかこの地域には鬼が住んでいて9人の勇敢な村人が退治したという伝承が伝わり、昔は弓を射って鬼退治をする行事が正月に行われていました。延命寺の宝物館には行事に使った弓矢が所蔵されています。神ガ丘の地名も、鬼退治をしたこの9人の活躍にちなんで付けられた『九頭神（くずかみ）の森』に由来します。近くの川には『鬼住橋』が架かり、河原には鬼が使ったという『鬼の盥（たらい）』の跡が今も残っています。また、和泉市には『父鬼』という地名があります。なんと鬼住に住む母鬼と夫婦で地下の洞窟を通って行き来したという話も!　地元の小学校では総合学習の時間に地名やこの鬼住伝説を勉強しますが、ぜひとも後世に伝えたいですね」。

堂浦さん

由緒ある鬼住の地名を誇りに思っています。

鬼住橋。延命寺より800mほど西に。親柱にその名を留める（＝写真右）。橋の下を流れる川も「鬼住川」と呼ばれる。

質問を募集しています!　「ここになぜこんなものが?」「この由来は?」など、街の中でふと感じたクエスチョンをお寄せください。あなたに代わってお調べします。応募先は欄外の宛先へハガキまたはFAXにて受付いたします。

20年ぶりのフルモデルチェンジ!
ガス炊飯器　直火匠（じかびのたくみ）

シンプルで見やすく、使いやすい操作パネル

炊飯時間約18分　蒸らし時間と合わせて約28分
「自米急ぎモード」で炊飯した場合の炊飯時間（炊飯量1合）

蓄熱厚釜
釜の素材には、優れた熱伝導性と軽さを併せもつ、厚釜のアルミキャストを採用しました。強いガスの火力が釜全体にムラなく伝わるため、ふっくらおいしいごはんを炊き上げることができます。

保温機能・タイマー機能付き
5合炊き炊飯器
RR-05SMS(シルバー・ブラック)
標準価格 92,400 円（税込）
当社販売価格 55,800円（税込）

ごはん本来のおいしさを引き出す
本焚白米モード
かまどの伝熱形態を再現した「本焚白米モード」。直火による強火力で強い熱対流を発生させます。甘み、香り、粘りが際立ったおいしいごはんに炊き上げることができます。

ボランティア市民活動フェスティバル　第14回
2014年2月23日（日）10:00～16:00
市民交流センター（キックス）
入場無料
よりよい明日へ　元たてよう市民の輪
フリーマーケット　展示コーナー　実演コーナー　ボランティア絵画コンクール作品展　ステージ　市民参加型ゾーン　軽食　スタンプラリー（先着150名）
お問い合せ先　市立市民公益活動支援センター「るーぷらざ」TEL:0721-53-8100 FAX:0721-53-8030
主催：河内長野市立市民公益活動支援センター　（指定管理者）（特活）かわちながの市民公益活動推進委員会　後援：河内長野市教育委員会

特集　いきいきと素敵に暮らす人たちを紹介します　32　河内長野で最古の温泉宿「南天苑」の社長…山﨑一弘さん

Fresh people フレッシュピープル

南北朝時代に開湯、河内長野市内では最古といわれる天見温泉。「南天苑」の前身は、昭和10年に阿倍野・松虫花壇が別館として開業。太平洋戦争による中断を挟み、先代・山﨑清之さんが昭和24年に「天見温泉・南天苑」として再興。山﨑一弘さんは、この伝統ある温泉旅館を女将の友起子夫人と切盛りする二代目社長。温泉や料理に加えアートや音楽をプランに盛り込むなど、新しい「おもてなし」に取り組む山﨑さんにお話を伺いました。

おもてなし。根底にあるのは「優しさ」

庭園に咲いていた椿の花を切って活ける山﨑さん。流儀は真養未生流、寧楽未生流と池坊を学び、華道を継いでからは、独自のアレンジで活ける自分流。「茶花なので剣山は使わず投げ入れです」

プロフィール
山﨑一弘（やまさき・かずひろ）さん
1960年河内長野市生まれ。大阪商業大学卒業後、会社員を経て1988年に南天苑勤務。94年より社長に就任。

「小さなお子様連れのお客様を歓迎しない老舗旅館があると聞きますが、当館は大歓迎です。というのもご家族三世代でお見えになるお客様が多いのです。楽しい想い出をつくっていただいたお子さんやお孫さんが親になり、またそのお子さんをお連れになる。こんなにうれしいことはありません。老舗旅館というよりも、どこか懐かしく、故郷に帰ってきたようなやすらぎ感じていただけたら」。

大学卒業後、外食業界で7年間の会社勤めをしていた山﨑さん。家業を継いだのは34歳の時です。

「温泉ブームが到来する前のこと。外食業が急成長を遂げていた時代ですから、私もいずれは外食業に転向しようと考えていました。ところが旅館を切り盛りしていた母が倒れ、勤め先である東京から脱サラして帰阪。現場に立ってみて気付いた。この佇まいには、たくさんの人々によって守り継がれてきた想いがある。古いものを壊して新しいものに取り替えてしまうのではなく、大事に遺していくことは優しさ。これは守らなければ…と思いました」。

椿は西王母と白玉。完成した作品。

風情ある本館の建物は『堺大浜潮湯別館・家族湯』を移築したもので創建100年。手入れが行き届いた庭園には、南天や季節の茶花が植えられています。

「最初は手探りでした。とにかく日本文化を学ぼうと、お茶や活花を習い、陶芸や建築についての知識を深め、襖の開け閉めからお茶の出し方といった所作を一から勉強しました」。

また、山﨑さんは、ひと昔前の高度成長時代に、収容人員を高めるため先代が改修してしまった部屋や廊下の内装を創建当時の本来の姿に復元。一方では、空調やテレビ、インターネットなど時代が求める快適性やアメニティ要素を取り入れつつ、「引き算の美しさ」という伝統的な日本建築の風情を壊さないよう知恵を絞ります。

天見を民話の里に

館内ではプロ奏者を招いて津軽三味線や、二胡、馬頭琴などのライブ付き食事会を開催。

最近では「奥河内オーガニックマーケット」の会場に利用され、ファン層を広げています。

「『伝統（民族）音楽の演奏＋食事会は、私の考案で始めたものですが、お陰さまでたくさんのお客様に喜んでいただいています。私自身が素晴らしいと感じたものを紹介することも、お客様へのおもてなしにつながる気がします。『三味線は冬聴くものです』というのは津軽三味線で有名な初代高橋竹山さんの言葉。厳寒のこの季節に開催している津軽三味線を聴く食事会は13年目を迎えました。

オーガニックマーケットは、河内長野市在住の、私たちよりずっと若い世代の女性の方々数名が企画されました。天然素材や手作りのものに敏感な方たちが、なぜ当旅館を会場に選ばれたのかと考えると、やはり場が醸し出す環境や優しさではないかと」。

国内はもとより最近は海外からお見えになるお客様も。

「ヨーロッパ、いまは特にフランス人のお客様が多いですね。辺りを散歩されて地元の人が見向きもしないような史跡に興味を示されるんです。河内長野はもちろん南河内には、ミステリアスな歴史資源がいっぱいです。古くから伝わるものには、必ず伝説や民話が伝承しています。それらを掘り起こして探求の里にするなど、一過性のブームやイベントではない息の長い観光につなげられたらと」。

伝統を鮮度のいい「生きもの」に変えるのは、山﨑さんの好奇心かもしれません。

いつもの作務衣姿。本館の前で。

古き良き日本の原風景に出会える宿「南天苑」

平成15年に国の有形文化財に登録された本館。「堺大浜潮湯別館・家族湯」を移築したもので、設計者は、東京駅舎や中之島中央公会堂などを設計した明治時代の名建築家・辰野金吾。

河内長野市天見158　Tel:0721-68-8081
http://www.e-oyu.com

ホンモノはどれ?

正解の方から抽選で図書カード（2000円）を5名の方にプレゼントします。

応募方法
ホンモノの答え、住所、氏名、電話番号、年齢、職業、本誌の感想・要望などを明記の上、欄外の宛先「ホンモノはどれ?」係へハガキ、またはファックスでご応募ください。
※2月末日締切 消印有効。
※当選発表は発送をもってかえさせていただきます。
〈No.256の正解は⑨でした〉

お勧めのDVD「七人の侍」（監督：黒澤明）

社員からのお勧め情報

河内長野ガス　中筋

言わずもがなの超一級映画ですが24歳の私が受けた衝撃をお伝えしたいと思いました。タイトルは知っているけどまだご覧になっていない方は是非!

1954年に公開された黒澤明監督作品です。映画好きの友人に勧められ、公開した年代も相まって半信半疑ながらDVDを借りて鑑賞しましたが、その思いは最初の二十分で覆います。

あらすじは日本の戦国時代、戦により行き場を失った野武士が盗賊と化し、略奪の標的にされて困窮した百姓は七人の侍を雇い入れ、百姓と武士の身分差を乗り越えながら協力して野武士一団と戦う物語。一人目の侍、志村喬が演ずる勘兵衛が盗人の人質に取られた子供を助け出し、礼も受けずに去ってゆくシーンと後半の地形を生かした村の防衛シーンは必見です。その当時の身分社会や生活、登場人物の特徴的な個性が感じ取れ、演技の気合いの入り方が全員尋常じゃありません!

まるで1580年代の戦国時代に入り込んだ感覚が味わえる作品です。結局私は最初から最後まで食い入るように見ていました。^^;　邦画史に残る作品ですのでレンタルショップでも必ず扱っています。皆さん、寒い季節にこそ手に汗握って、寒さに打ち勝つ映画を一度ご覧になってはいかがでしょうか?　あと、鑑賞の際はセリフが聞き取りづらいので字幕をつけて見ることをおすすめします。（邦画ですが、私も途中から字幕を付けて鑑賞しました…）